

し、則重を生んだ。則重は越前權介となつたから吉原介と稱し、助宗を生み、助宗は河合齋藤と稱した。その子に實直、實直の子實直があり、實直の子は實盛で、武藏の長井に住んだ。實盛が長井齋藤別當と稱したのはこのわけである。

(二)實盛の戦死—壽永二年六月木曾義仲の爲に追撃せられた平軍の中にあつた實盛は、老軀を以て手塚太郎光盛と相搏つて討死した。その所は、平家物語に江沼郡の篠原と記し、源平盛衰記に成合池として、實盛討死の後平軍が篠原に退却したとあるが、二書の謂ふ所恐らくは同一で、一は篠原を廣義に、一は狹義に解したのであらう。今實盛の首洗池又は手塚山と稱するものが柴山湖畔にあり、實盛塚が篠原に在る。それらが果して當時の遺蹟か否かは判らぬが、とにかく篠原はこのあたりを汎稱したものであらう。

(三)遊行上人と實盛—實盛戦死の事の勇壯なる軍物語として世に傳へられるに至つたのは第一に源平盛衰記・平家物語の爲であり、第二に謠曲の爲である。謠曲實盛は世阿彌元清の作で、實盛の亡靈が一僧の濟度によつて苦患を免れたことを説く極めて普通の手法であり、その僧は單に上人とあつて遊行上人とは明記しない。しかし遊行上人が實盛の亡靈を濟度したとの傳聞は、滿濟准后日記應永廿一年五月八日の條に記されて、三月十一日の事歟としてある。然ればこの謠曲はそれに因つて作られたものであり、今も藤澤清淨光寺には、盂蘭盆の十四日に薄念佛と稱して實盛を用ふ法式が行はれる。但し多太神社に蔵せられる太空の納札といふものは、遊行十四世他

阿彌上人康應二年三月廿一日と記される故に眞物とは認め難い。何となれば十四世太空は、應永十九年三月に法燈を繼いだ人であるからである。

サイトウサンクロウ 齋藤三九郎 越中射水郡佛生寺村の産。江戸に名を顯した劍客齋藤彌九郎の弟である。天保末年長谷川猷の薦によつて藩の家老青山知次に仕へ、弘化三年西洋風の大砲三門を鑄た。後老臣横山隆章の家に仕へたが、故あつて禁錮に處せられ廢藩の時に及んだ。

サイトウタダアキラ 齋藤忠明 通稱三左衛門・中務。寛永五年前田利常の小々將となつて五百石を領し、八年父中務忠茂の遺知千五百五十石を襲ぎ、御先簡頭・御馬廻頭を経て、延寶三年二百石を加へ、元祿三年致仕して宗津と號し、料三百石を受け、四年に歿した。

サイトウタダシゲ 齋藤忠茂 又光忠・光重。通稱中務。實は中川半左衛門の子で、刑部宗忠の婿となつたもの。慶長八年加賀に來り、前田利長に仕へ、祿千五百石に至り、大坂の役に小々將頭となり、その後役に二、丸青屋口で敵首二を獲、寛永元年又五百石を加へられ、御小將組頭に任じ、寛永八年歿した。

サイトウナガツグ 齋藤長次 通稱市左衛門。次兵衛基次の子。慶長元年新知百五十石を得て御小將となり、五年大聖寺陣に従ひ、九年五十石を加へ、十五年父の遺知二百石を加へ、十六年御使番に任じ、大坂冬役に槍奉行となり、夏役には二、丸阿部野口で首一つを獲た。寛永十四年歿。

久右衛門・安右衛門。正徳四年御馬乗役に召出され、百五十石を得て組外並に列し、前田吉徳に屬し、九年百石を加へ、二十年大小將に轉じ、延享二年四月廿四日五十七歳で歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

サイトウヒヨウフ 齋藤兵部 内藏助利三の子。利三は明智光秀に仕へ、秀吉の爲に殺された人。兵部、前田利長に仕へて三百石を領し、大坂再役に三、丸野下で首一を獲、後外叔の横山氏を討つて如雲と號し、寛永十一年歿。その嫡子横山武右衛門は横山長知に仕へて五百石を受け、二子齋藤主馬好之は前田利常に召出されて三百石を食み、子孫相繼いだ。

サイトウマサヨシ 齋藤方良 通稱源太夫。享保十六年父市承元直の遺知三百石を受け、前田宗辰の御次番となり、後大小將に列し、御納戸奉行に任じたが、明和三年指扣を命ぜられ、四年役筋に不埒あつた爲改易せられた。

サイトウムネタタ 齋藤宗忠 通稱刑部。初め朝倉義景に仕へ、越前堀江本庄を領して六藏城に居り、堀江中務と稱した。後元龜四年織田信長に降り、次いで前田利家に仕へ、九百石を領し、末森役に従ひ、遂に剃髮して夕雲と號し、慶長十六年歿。義子中務忠茂その後を受けた。

サイトウモトツグ 齋藤基次 通稱忠左衛門。次兵衛。越前府中に於いて前田利家に仕へ、二百石を領し、慶長十五年歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

サイトウモンシヨウ 齋藤聞精 江沼郡勅使眞宗西派願成寺の僧。同郡山代田中伊織の

子。幼にして父と共に京都に住し、壯年佛乘に志し、遊方して永平寺の禪堂に入つたが、既にして百叡の知る所となり、願成寺の席を嗣いだ。明治二十四年以來大學林の教師となり、二十九年辭職、監事局監事・内事局顧問に歴任し、三十七年六月二日六十五歳を以て歿。法諡戒忍院。

サイトウヤエモン 齋藤彌右衛門 御算用者小頭並として新知六十石を得、小頭に進んで八十石となり、後屢加増して二百二十石に至り組外に班した。子孫相繼いで藩に仕へる。

サイトウヤスツグ 齋藤安次 通稱長兵衛。寛永十年父市左衛門長次の配分知百五十石を受け、前田光高の御小將に列し、承應三年割場奉行となり、寛文元年七十石を加へ、延寶五年定番御番頭として百五十石を増し、元祿二年御免、三年致仕して安休と號し、三十人扶持を受け、七年歿した。

サイトウユキツグ 藤齋之詔 初め清太郎。左兵衛、後金兵衛。世本多く金平に作る。御異風の士清右衛門富信の子。元文四年四十五人扶持を得、寛保二年七百二十石となり、御鐵炮奉行に任じ、安永四年組外に列し、改作奉行に轉じ、五年郡奉行を兼ね、天明元年八月一日五十四歳を以て歿した。之詔は武藝凡べて通ぜざることなく、時人は之を妖怪と稱した。その神陰流の劍術は南保太左衛門・神保三八に、居合と劍術は河合半兵衛に、居合は中村八兵衛・白江某に、萬術は藤江鍛太夫に、鎌玉術は高柳清馬に傳はつたが、之詔の子兵三郎の時出奔して家斷絶した。

サイトウヨシカタ 齋藤好堅 通稱吉左衛門。寛文六年養父主馬好之の遺知三百石を襲